

遺跡No	次	遺構種別	遺構No	時期	説明	形態	主軸	長さ	幅	深さ	付属施設	出土遺物
63-017	007	竪穴建物跡	0001	—	調査区南東部に位置する。	—	N-58° -W	3.30	—	0.30	—	—
63-017	007	竪穴建物跡	0002	—	調査区南東部に位置し、西側に張り出しをもつ。	—	N-99° -E	—	—	0.15	—	須恵器坏
63-017	007	竪穴建物跡	0003	古代	調査区南部に位置し、東壁にカマド、その右脇に棚状遺構をもつ。	隅丸方形	N-115° -E	5.60	4.60	0.55	カマド	土師器坏・甕・甑・台付甕、須恵器坏・蓋・高台坏・長頸瓶・甕、ロクロ土師器坏
63-017	007	竪穴建物跡	0004	古代	調査区南部に位置し、第27号土坑に切られる。	隅丸方形	N-117° -E	3.30	2.80	0.20	カマド	土師器甕、須恵器高台坏・甕
63-017	007	竪穴建物跡	0005	古代	調査区南部に位置する。カマドは南東壁北寄りに構築される。	隅丸方形	N-119° -E	4.10	3.50	0.55	—	土師器坏・甕・台付甕・蓋、須恵器蓋・高台坏・甕、ロクロ土師器坏、刀子、砥石
63-017	007	竪穴建物跡	0006	古代	調査区南西に位置し、中央に床面からの深さ70cmの床下土坑をもつ。	—	N-47° -W	—	—	0.15	床下土坑	土師器坏
63-017	007	竪穴建物跡	0007	古代	調査区南西部に位置し、第22号土坑に切られる。7・8号竪穴建物跡は約5m離れているが、遺構間の遺物整合が認められた。	隅丸方形	N-90° -E	4.00	3.80	0.25	カマド	土師器坏・皿・甕・台付甕、須恵器蓋・坏・脚付盤・壺・甕、不明鉄製品、鉄釘、鉄滓、編物石

63-017	007	竪穴建物跡	0008	古代	調査区南西部に位置する。7・8号竪穴建物跡は約5m離れているが、遺構間の遺物整合が認められた。	—	N-56° -E	—	—	0.40	—	土師器坏・皿・鉢・甕・台付甕・椀、須恵器壺、鉄釘、粘土塊、砥石
63-017	007	竪穴建物跡	0009	古代	調査区南西部に位置し、第18号土坑に切られる。カマドは2基確認され、カマドBが新しい。	隅丸方形	N-0°	3.70	3.30	0.50	カマド	土師器坏・甕・甕、須恵器蓋・坏、縄文ミニチュア、磨痕石、砥石、編物石
63-017	007	竪穴建物跡	0010	古代	調査区中央部に位置し、1辺5.2mと長軸がやや長い。県調査A区SI55の一部にあたる。	—	N-77° -W	5.20	—	0.50	カマド	土師器坏・台付甕、須恵器坏・甕、ロクロ土師器坏、土製紡錘車
63-017	007	竪穴建物跡	0011	古代	調査区南西部に位置し、幅広の周溝が巡る。県調査A区SI43の一部にあたる。出土遺物は多く、灰釉陶器も多数含む。	—	N-90° -E	3.10	—	0.40	—	土師器坏・甕・台付甕、須恵器椀・坏・高台椀・高台坏・皿・長頸瓶・甕、ロクロ土師器高台椀・高台坏・皿、灰釉陶器高台椀・高台皿・長頸瓶・瓶、鉄鏃、鉄釘、棒状鉄製品、刀子
63-017	007	竪穴建物跡	0012	古代	調査区南西部に位置し、第15・19号竪穴建物跡を切る。東壁にカマド、南東隅に貯蔵穴をもつ。県調査A区SI40の一部にあたる。	隅丸方形	N-96° -E	6.10	4.70	0.10	—	土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・皿・高台椀・甕、土錘、刀子、鉄釘、鉄滓
63-017	007	竪穴建物跡	0013	古代	調査区南西部に位置し、県調査A区SI6の一部にあたり、県調査区にまたがる掘立柱建物跡と重複する。	隅丸方形	N-10° -E	3.80	3.00	0.15	—	土師器坏・甕、須恵器坏、土錘
63-017	007	竪穴建物跡	0014	古代	調査区南西部に位置し、第28号竪穴建物跡を切り、第27号竪穴建物跡に切られる。	—	N-76° -W	2.60	—	0.25	—	須恵器蓋・坏・甕、鎌

63-017	007	竪穴建物跡	0015	古代	調査区南西部に位置し、第12号竪穴建物跡に切られる。遺構の遺存状態は悪く、遺物は少量である。県調査A区SI19の一部にあたる。本調査区では出土遺物が少なく、9世紀代の土師器坏が出土しているが、第12号竪穴建物跡のものが混入している可能性があり、県調査区の所見に従いたい。	—	N-50° -E	4.50	—	—	—	土師器坏・皿・甕
63-017	007	竪穴建物跡	0016	古代	調査区南西部に位置し、県調査A区SI17の一部にあたり、県調査区にまたがる掘立柱建物跡と重複する。	—	N-4° -E	5.20	—	0.65	—	土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏
63-017	007	竪穴建物跡	0017	古代	調査区南西部に位置し、第3・4号特殊土坑、第26号土坑に切られる。カマドは西壁に造られ、前面に浅い窪みをもつ。県調査A区SI8の一部にあたる。	—	N-90° -W	4.80	—	0.20	カマド	土師器ミニチュア・坏・甕、須恵器転用硯
63-017	007	竪穴建物跡	0018	古代	調査区南西部に位置し、第19号竪穴建物跡と重複する。遺構の遺存状態は悪く、遺物は少量である。県調査A区SI39の一部にあたる。	—	N-4° -E	3.50	—	0.15	—	須恵器坏・甕、刀子
63-017	007	竪穴建物跡	0019	古代	調査区南西部に位置し、第12号建物跡に切られ、第18号竪穴建物跡と重複する。遺構の遺存状態は悪く、遺物は少量である。県調査A区SI41の一部にあたる。	—	N-4° -E	—	—	0.10	—	土師器坏・甕、須恵器坏

63-017	007	竪穴建物跡	0020	古代	調査区南西部に位置し、第28号土坑に切られる。カマドは東壁に構築される。	隅丸方形	N-106° -E	5.80	4.70	0.35	カマド	土師器坏・皿・甕・不明、須恵器坏・高台坏・皿・高台椀・甕・甌、ロクロ土師器高台坏、土師質甕、土製支脚、土錘、刀子、鉄斧
63-017	007	竪穴建物跡	0021	古代	調査区北西部に位置し、第22号竪穴建物跡を切る。県調査A区SI15の一部にあたり、カマドは東壁に構築されるとみられる。	—	N-90° -E	3.00	—	0.40	カマド	土師器坏・台付甕、須恵器坏・高台坏、刀子
63-017	007	竪穴建物跡	0022	古代	調査区北西部に位置し、第21号竪穴建物跡に切られる。カマドは北壁に構築される。	隅丸方形	N-8° -E	2.80	2.20	0.20	カマド	土師器坏
63-017	007	竪穴建物跡	0023	古代	調査区北西部に位置し、第4号溝に切られる。	—	N-90° -W	3.30	—	0.15	—	土師器坏、須恵器坏
63-017	007	竪穴建物跡	0024	古代	調査区北西部に位置し、第3号井戸、第4号溝に切られる。カマドは北壁及び東壁南寄りに構築される。	隅丸方形	N-8° -E	3.60	2.50	0.15	カマド	土師器甕、須恵器坏・高台坏・皿・壺

63-017	007	竪穴建物跡	0025	古代	調査区北西部に位置し、第4・5号溝に切られる。	隅丸方形	N-8° -E	4.30	3.50	0.20	—	土師器坏・甕、須恵器坏・高台皿・高台坏・高坏カ、灰釉陶器瓶、鎌
63-017	007	竪穴建物跡	0026	古代	調査区北部に位置し、南壁は張り出し部又は重複する土坑とみられる。大部分は第3次調査区にある。南壁際から蹄脚硯の破片出土。カマドは東壁に構築される。	隅丸方形	N-102° -E	5.10	4.90	0.40	カマド	土師器坏・須恵器蓋・坏・高台坏・甕・蹄脚円面硯
63-017	007	竪穴建物跡	0027	古代	調査区南西部に位置し、第14号竪穴建物跡を切る。カマドは長煙道のもので東壁に構築される。県調査A区SI45の一部にあたる。	—	N-90° -E	4.30	—	0.35	カマド	土師器坏・甕・台付甕・高坏脚部カ、ロクロ土師器坏、須恵器蓋・坏・高台坏・皿・壺・高台椀カ、土錘、鉄釘
63-017	007	竪穴建物跡	0028	古代	調査区南西部に位置し、第14号竪穴建物跡に切られる。県調査A区SI56の一部にあたる。	—	N-90° -E	4.20	—	0.70	—	土師器坏・甕・台付甕、須恵器蓋・坏・コップ形土器・円面硯・甕、砥石
63-017	007	竪穴建物跡	0029	古代	調査区南西部に位置し、カマドは東壁にあり、先端部のみ確認された。県調査A区SI46の一部にあたる。	—	N-90° -E	—	—	—	カマド	土師器甕、須恵器坏・甕

63-017	007	竪穴建物跡	0030	中世	調査区南西部に位置し、県調査A区SI71の一部にあたる。県調査報告では、時期は不明確で、中世の竪穴状遺構の可能性も指摘。	—	N-19° -E	3.00	—	0.30	—	—
63-017	007	竪穴建物跡	0031	古代	調査区東部に位置する。	—	N-35° -E	3.90	—	0.35	—	土師器坏・甕・壺・甑
63-017	007	竪穴建物跡	0032	古代	調査区南西部に位置し、第33号竪穴建物跡を切る。調査時は第16B号竪穴建物跡。	—	N-90° -E	—	—	0.25	—	須恵器脚付盤
63-017	007	竪穴建物跡	0033	古代	調査区南西部に位置し、第32号竪穴建物跡に切られる。調査時は第17B号竪穴建物跡。	—	N-130° -E	—	—	0.15	—	須恵器盤
63-017	007	掘立柱建物跡	0001	古代	調査区南部に位置する。掘方平面は円形を呈する。柱間は2.0~2.3m。	2×2間の側柱式掘立柱建物	N-40° -W	4.40	4.10	0.85	—	—

63-017	007	井戸跡	0001	古代	『岡部町史』等に掲載。調査区南西部に位置する大規模な石組井戸である。掘方平面形は瓢箪形を呈し、掘方大径部の中央に河原石が組まれ、石組内径は60～70cmを測る。石組は底面から3.2mの高さまでである。石組内側の中層下部に、多量の礫が含まれていた。石組の周囲には貼床が施され、使用面が推定される。遺物は上層を中心に多量に出土。	瓢箪形	N-64° -E	9.90	6.40	4.40	—	土師器坏・皿・甕・台付甕・小形鉢・小型壺・小型鉢・鉢・甑・土製支脚、須恵器蓋・坏・鉄鉢形・佐波理椀・高台盤・円面硯・コップ形・平瓶カ・鉢・長頸瓶・壺・瓶・甑・短頸壺・甕、須恵質平瓦、土錘、羽口、刀子、鉄釘、磨石、砥石
63-017	007	井戸跡	0002	—	調査区南西部に位置し、上部が0.75m掘り込まれ、そこから本体部が2.25m掘り込まれる。	隅丸方形	—	2.90	2.60	3.00	—	土師器坏・椀、須恵器甕、縄文土器深鉢、鉄滓
63-017	007	井戸跡	0003	—	調査区北西部に位置し、第24号竪穴建物跡を切る。	—	—	1.50	1.40	2.00	—	土師器甕
63-017	007	井戸跡	0004	—	調査区南部に位置する。。調査時はSE1やSX2などとして扱われていた。	円形	—	2.10	2.00	2.55	—	—
63-017	007	特殊土坑	0001	—	1号特殊土坑は、第1号井戸に変更したため、欠番とした。	—	—	—	—	—	—	—

63-017	007	特殊土坑	0002	古代	調査区南部に位置する。	隅丸方形	N-33°	—	3.80	0.65	—	須恵器坏・蓋・甕・高台坏・瓶	
63-017	007	特殊土坑	0003	古代	調査区南西部に位置し、第17号竪穴建物跡を切る。礫を多量に含む。	円形	—	—	3.80	2.70	0.20	—	須恵器蓋・高台坏、常滑甕、土錘、鉄
63-017	007	特殊土坑	0004	中世	調査区南西部に位置し、第17号竪穴建物跡を切る。上層に礫を多く含む。	円形	—	—	3.10	3.00	2.90	—	須恵器坏・蓋・高台坏、瓦質甕、軟質
63-017	007	特殊土坑	0005	—	調査区南西部に位置し、土取り穴と推定される。	楕円形	—	—	3.10	2.50	0.75	—	—
63-017	007	特殊土坑	0006	古代	調査区南西部に位置し、県調査A区SI49の一部にあたる。土取り穴の性格をもつ特殊土坑として報告する。	—	—	—	—	—	1.00	—	土師器坏、須恵器甕

63-017	007	特殊土坑	0007	古代	調査区北部に位置し、溝と重複する。大規模な土取り穴と考えられる。	—	N-16° -E	5.30	—	1.00	—	土師器坏・甕・台付甕、須恵器蓋・坏・瓶・甕
63-017	016	竪穴建物跡	0001	古代	調査区南部に位置し、幅広の周溝をもつ。	隅丸方形	N-32° -W	—	2.80	0.50	—	土師器坏・壺、須恵器蓋
63-017	016	竪穴建物跡	0002	古代	調査区南部に位置する。	隅丸方形	N-10° -E	3.50	—	0.30	—	須恵器坏・甕、刀子カ、鉄斧、須恵質平瓦
63-017	016	竪穴建物跡	0003	古代	調査区南部に位置する。	—	N-68° -E	—	—	0.35	—	土師器坏・甕、須恵器甕
63-017	016	竪穴建物跡	0004	古代	調査区中央部に位置し、第1号柵跡に近接する。南隅の付近の床面が掘り込まれており、土層の状況から、埋没途中で掘削されたものと思われる。	—	N-48° -W	—	—	0.45	—	土師器坏・皿・甕、須恵器蓋、土錘、棒状鉄製品

63-017	016	竪穴建物跡	0005	古代	調査区中部に位置し、第1号柵跡と近接する。カマドは東壁に構築される。	隅丸方形	N-75° -E	3.00	2.90	0.40	カマド	土師器坏、須恵器坏・盤・甕
63-017	016	竪穴建物跡	0006	古代	調査区北部に位置する。カマドは東壁に構築される。	隅丸方形	N-72° -E	3.40	3.10	0.50	カマド	土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏、刀
63-017	016	竪穴建物跡	0007	古代	調査区北部に位置する。カマドは南東壁南寄りに構築される。	—	N-115° -E	3.60	—	0.50	カマド	ロクロ土師器小皿・椀・坏・高台坏、土師質羽釜・甕、須恵質羽釜
63-017	016	掘立柱建物跡	0001	古代	調査区南部に位置し、第2号掘立柱建物跡と重複する。掘方平面は円形を呈する。柱間は2.1~2.2m。	3×2間の側柱式掘立柱建物	N-70° -E	6.50	4.20	0.80	—	土師器坏、縄文土器深鉢
63-017	016	掘立柱建物跡	0002	—	調査区南部に位置し、第1号掘立柱建物跡と重複する。規模・構造は不明で、掘方平面は長方形を呈する。柱間は1.7m。	—	N-48° -E	—	—	0.80	—	—

63-017	016	柵跡	0001	—	調査区中央部に位置する。柱間は0.9~1.8m。	—	N-37° -W	—	—	0.70	—	—
63-017	016	特殊土坑	0001	古代	調査区北部に位置し、底面は凹凸が激しく、壁面は一部オーバーハングする。土取り穴とみられる。	—	N-85° -E	—	6.90	1.20	—	土師器坏・高坏・甕・鉢・台付甕・甌、須恵器蓋・坏・高台坏・甕・円面硯、須恵質平瓦、土師質平瓦
63-017	016	特殊土坑	0002	古代	調査区中部に位置し、円形の有段遺構である。	—	—	3.50	—	1.20	—	土師器坏・高坏・甕、須恵器盤・台付長頸瓶・甕、砥石
63-017	067	竪穴建物跡	0001	古代	調査区中央部に位置する。	隅丸方形	N-37° -E	4.10	3.70	0.25	カマドは北	土師器坏・甕・甌カ、須恵器蓋・坏・高台坏・甕、土錘、棒状鉄製品、刀子
63-017	067	竪穴建物跡	0002	古代	調査区中央部に位置し、67次第3号竪穴建物跡に切られる。	—	N-39° -W	—	—	0.30	—	土師器坏・皿・甕、須恵器蓋・坏・盤・椀・長頸瓶・甕、土錘、丸玉、打製石斧

63-017	067	竪穴建物跡	0003	古代	調査区北部に位置し、第2号竪穴建物跡を切る。	—	N-39° -W	3.90	—	0.35	—	土師器皿・甕・台付甕、須恵器蓋・坏
63-017	067	竪穴建物跡	0004	古代	調査区北東隅に位置する。	—	—	—	—	0.65	—	須恵器盤
63-017	067	掘立柱建物跡	0001	—	調査区南端部に位置し、溝と重複する。掘方平面は不整形を呈する。柱間は1.8m。	小規模な総柱式掘立柱建物	N-37° -W	3.60	3.40	1.70	—	—
63-017	067	井戸跡	0001	—	調査区北部に位置し、壁面はオーバーハングする。	円形	—	1.80	1.70	—	—	須恵器蓋・坏
63-017	067	井戸跡	0002	—	調査区北部に位置する。	—	—	1.50	—	1.80	—	土師器土製支脚

63-017	071	竪穴建物跡	0001	古代	調査区南部に位置する。	—	N-166° -W	—	—	0.30		土師器坏・甕、須恵器坏、打製石斧
63-017	092	竪穴建物跡	0001	古代	調査区中央部に位置し、多数の長方形土坑に切られる。4本の 支柱穴をもつ。カマドは北壁に構築される。	方形	N-22° -E	5.90	5.90	0.30	カマド	土師器坏・甕、須恵器蓋・坏・長頸 瓶、砥石
63-017	092	竪穴建物跡	0002	古代	調査区中央部に位置し、多数の長方形土坑と重複する。床下 土坑をもち、カマドは北壁に構築される。	方形	N-21° -E	3.70	3.60	0.20	床下土坑 カマド	須恵器坏・甕
63-017	092	竪穴建物跡	0003	古代	調査区西部に位置し、第1号井戸及び多数の長方形土坑に切 られる。カマドは東壁に構築される。	—	N-110° -E	3.90	3.90	0.30	カマド	土師器甕、須恵器坏・瓶・甕
63-017	092	竪穴建物跡	0004	古代	調査区西部に位置し、多数の土坑に切られる。カマドは東壁に 構築される。	—	N-112° -E	5.40	—	0.20	カマド	土師器鉢、須恵器高台坏
63-017	092	竪穴建物跡	0005	古代	調査区中央部に位置し、南西壁には張り出し部又は土坑の重 複がある。カマドは北東壁及び南東壁に構築される。	隅丸方形	N-40° -E	5.20	4.30	0.50	カマド	土師器坏・皿・甕、ロクロ土師器坏、 須恵器坏・蓋・高台坏・甕、土錘
63-017	092	竪穴建物跡	0006	古代	調査区中央部に位置し、第3号火葬墓等に切られる。カマドは 東壁に構築される。	—	N-24° -E	5.00	—	0.10	カマド	土師器坏・甕、須恵器坏、縄文土器 深鉢

63-017	092	竪穴建物跡	0007	古代	調査区南西部に位置し、土坑等と重複する。	—	N-67° -W	—	—	0.15	—	土師器坏、ロクロ土師器坏、須恵器坏・脚付盤・甕、灰釉陶器瓶
63-017	092	掘立柱建物跡	0001	—	調査区南西部に位置し、規模は不明だが南北軸が3間またはそれ以上で、掘方平面は円形を呈し、底面にはそれぞれ柱の重みによると思われる窪みが認められる。柱間は1.95m。	—	N-18° -E	5.85	—	0.60	—	—
63-017	092	井戸跡	0001	—	調査区西部に位置し、土層の状況から第3号竪穴建物跡を切ると思われる。	楕円形	—	2.60	2.50	1.70	—	土師器坏、須恵器坏・甕
63-017	092	火葬墓	0001	中世	調査区中央部に位置する。	楕円形	N-42° -W	1.20	0.70	0.05	—	—
63-017	092	火葬墓	0002	中世	調査区中央部に位置する。焚口は西側に確認された。	—	N-103° -E	—	0.80	0.20	—	—
63-017	092	火葬墓	0003	中世	調査区中央部に位置し、第6号竪穴建物跡を切る。底面には礫が規則的に置かれていた。	楕円形	N-68° -W	1.10	0.55	0.10	—	—
63-017	097	竪穴建物跡	0001	古代	調査区北東部に位置し、第1・2号特殊土坑と重複し、土層断面から本竪穴建物が埋没する前に第1・2号特殊土坑が掘削されたものとみられる。そのため、第201図に掲載した第1・2号特殊土坑遺物と本建物跡出土遺物は時間差がないと考えられる。カマドは東壁に構築される。	—	N-105° -E	5.50	—	0.15	カマド	土師器坏・鉢・甕、須恵質平瓦、磨痕石
63-017	097	特殊土坑	0001	古代	調査区北東部に位置し、第1号竪穴建物跡を切る。出土遺物から第1号竪穴建物跡が廃絶後、ほとんど間をおかずに掘り込まれたものと思われる。	—	—	—	—	0.80	—	土師器坏・甕

63-017	097	特殊土坑	0002	古代	調査区北東部に位置し、第1号竪穴建物跡を切る。出土遺物から第1号竪穴建物跡が廃絶後、ほとんど間をおかずに掘り込まれたものと思われる。	—	—	—	—	0.70	—	須恵器甑
63-017	103 A区	竪穴建物跡	0001	古代	調査区西部に位置し、第5号竪穴建物跡に切られる。カマドは北西壁に構築される。	隅丸方形	N-64° -W	5.80	5.50	0.25	カマド	土師器坏・甕、須恵器蓋・坏、鉄鎌
63-017	103 A区	竪穴建物跡	0002	古代	調査区中央部に位置する。カマドは南東壁に構築される。	隅丸方形	N-116° -E	4.80	4.00	0.25	カマド	土師器坏・甕・不明、須恵器蓋・坏・甕、縄文土器深鉢
63-017	103 A区	竪穴建物跡	0003	—	調査区中央部に位置し、多数の土坑に激しく切られる。	—	N-24° -E	4.40	—	0.20	—	須恵器蓋
63-017	103 A区	竪穴建物跡	0004	古代	調査区西部に位置する。	—	N-27° -E	3.40	—	0.40	—	須恵器坏、土師器台付甕・甕、刀子
63-017	103 A区	竪穴建物跡	0005	—	調査区西部に位置し、第1号竪穴建物跡を切る。カマドは北西壁に構築される。	方形	N-66° -W	3.70	3.20	0.35	カマド	—
63-017	103 A区	竪穴建物跡	0006	古代	調査区中央部に位置し、第10号竪穴建物跡、第2号井戸に切られる。カマドは北壁に構築される。	方形	N-15° -E	4.90	—	0.10	カマド	土師器坏、土錘、鎌、銭
63-017	103 A区	竪穴建物跡	0007	—	調査区中央部に位置し、第8・9号竪穴建物跡、第4号溝に切られる。西壁付近から、カマドの残骸と思われる窪みが確認され、北壁付近には焼土が分布し、こちらにもカマドがあった可能性もある。	—	N-70° -W	4.20	—	0.05	カマド	—

63-017	103 A区	竪穴建物跡	0008	古代	調査区中央部に位置し、第7号竪穴建物跡を切り、第9号竪穴建物跡、第4号溝、土坑に切られる。一辺7m以上の大型竪穴建物。カマドは北壁に構築される。	—	N-18° -E	7.30	—	0.20	カマド	土師器坏・甕、須恵器坏・甕、砥石
63-017	103 A区	竪穴建物跡	0009	古代	調査区中央部に位置し、第7・8号竪穴建物跡を切り、第4号溝に切られる。	—	N-110° -E	2.80	—	0.15	—	須恵器坏・高台坏、砥石
63-017	103 A区	竪穴建物跡	0010	古代	調査区中央部に位置し、第6号竪穴建物跡を切る。カマドは北西隅に構築される。	隅丸方形	N-63° -W	4.50	—	0.20	カマド	土師器皿、須恵器皿
63-017	103 A区	井戸跡	0001	古代	調査区北東部に位置する。	—	—	2.20	—	1.30	—	—
63-017	103 A区	井戸跡	0002	古代	調査区中央部に位置し、第6号竪穴建物跡を切る。	円形	—	0.80	0.80	—	—	—
63-017	103 A区	特殊土坑	0001	古代	調査区北東部に位置し、底面付近の壁面は強くオーバーハング	楕円形	—	2.40	2.20	1.10	—	土師器坏・甕、須恵器蓋・坏、刀子
63-017	103 A区	火葬墓	0001	中世	調査区中央部に位置する。焚口は南西側に確認された。	不整形	N-35° -E	1.50	0.60	0.30	—	—
63-017	103 B区	竪穴建物跡	0001	古代	調査区西部に構築され、第1号火葬墓及び多数の土坑に切られる。カマドは確認されなかったが、北西壁付近で口縁部を下にした土師器甕が出土しており、カマドの補強材の一部である可能性がある。	隅丸方形	N-56° -W	4.50	—	0.15	—	土師器坏・甕、須恵器蓋

63-017	103 B区	竪穴建物跡	0002	—	調査区西部に位置し、第1号溝を切る。竪穴建物跡として報告したが、それ以外の性格をもつ遺構の可能性もある。	—	—	—	—	0.30	—	土師器甕
63-017	103 B区	竪穴建物跡	0003	古代	調査区中央部に位置し、土坑に切られる。北壁付近の第8号土坑と重複する箇所に、わずかな窪みと粘土が認められ、カマドの残骸である可能性がある。第27号土坑の底面には焼土が確認されており、こちらにもカマドがあった可能性がある。	隅丸方形	N-35° -E	3.70	—	0.25	カマド	土師器坏・甕、須恵器蓋
63-017	103 B区	竪穴建物跡	0004	古代	調査区中央部に位置し、第1号井戸に切られる。	—	N-57° -W	4.30	—	0.20	—	土師器皿、瓦質すり鉢、須恵質丸瓦、土製紡錘車カ
63-017	103 B区	竪穴建物跡	0005	古代	調査区中央部に位置し、第1号井戸に切られる。カマドは東壁に構築され、カマド右脇に貯蔵穴がある。	—	N-107° -E	—	—	0.25	カマド 貯蔵穴	土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・脚付盤・高坏カ
63-017	103 B区	井戸跡	0001	—	調査区中央部に位置し、第4号竪穴建物跡を切る。	楕円形	—	4.10	3.70	—	—	—
63-017	103 B区	火葬墓	0001	中世	調査区西部に位置し、第1号竪穴建物跡を切る。焚口は南東側に確認された。	不整形	N-55° -W	0.80	0.50	0.25	—	—
63-017	103 B区	火葬墓	0002	中世	調査区中央部に位置し、焚口は北西側に確認された。	不整形	N-120° -E	1.00	0.40	0.20	—	—
63-017	103 B区	火葬墓	0003	中世	調査区中央部に位置する。	—	N-58° -W	—	0.80	0.15	—	—

63-017	104	竪穴建物跡	0001	古代	調査区西部に位置する。カマド右脇から土師器甕・甑が集中して出土した。カマドは北東壁に構築される。	—	N-35° -E	—	—	0.40	カマド	土師器坏・皿・甕・甑、須恵器椀
63-017	104	竪穴建物跡	0002	古代	調査区中央部に位置し、第1号溝に切られる。カマドは北壁に構築される。	隅丸方形	N-26° -E	3.60	3.00	0.10	カマド	須恵器坏・高台坏
63-017	104	竪穴建物跡	0003	古代	調査区東部に位置する。カマドは北壁に構築され、カマド右脇に貯蔵穴がある。	—	N-0°	6.30	—	0.30	カマド 貯蔵穴	土師器坏・椀・甕、鉄滓
63-017	112	井戸跡	0001	—	調査区東部に位置する。	円形	—	2.30	—	—	—	—
63-017	115	竪穴建物跡	0001	古代	調査区北西隅に位置し、規模は明確ではないが、一辺5.5m以上とやや大型の可能性がある。	—	N-46° -W	5.50	—	0.30	—	土師器坏
63-017	138	竪穴建物跡	0001	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	138	竪穴建物跡	0002	中世	調査区西部に位置し、土坑・ピットと重複する。竪穴建物跡としたが、中世の竪穴状遺構の可能性が高く、第1号柵跡と関連する可能性がある。	隅丸方形	N-24° -E	4.00	3.00	0.10	—	—
63-017	138	掘立柱建物跡	0001	—	調査区北部に位置し、規模は不明だが東西軸が2間である。掘方平面は円形を呈する。柱間2.5m。	—	N-20° -E	—	5.00	0.65	—	—

63-017	138	柵跡	0001	—	調査区北西部に位置する。第2号竪穴建物跡を囲うようにあり、関連する可能性がある。柱間は1.1~2.2m。	—	N-24°	—	—	0.60	—	—
63-017	139	竪穴建物跡	0001	古代	調査区中央部に位置し、第1号溝、第2号特殊土坑、第15号土坑に切られる。カマドは確認されていないが、北壁にあると思われる。	隅丸方形	N-45°	5.20	3.20	0.35	—	土師器坏、須恵器脚付盤カ、刀子、砥石、編物石
63-017	139	井戸跡	0001	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63-017	139	井戸跡	0002	—	調査区東部に位置し、土坑と切り合う。	楕円形	—	1.40	—	—	—	—